

## 第17回 和紙文化講演会

# 『海を越えた和紙の魅力』 — 手漉き紙の多彩な展開 —

### 講演プログラム

9:40

開場

10:00~10:10 開会挨拶 大江礼三郎  
(東京農工大学名誉教授)

10:10~11:00 講演(1) 森木佳世子  
(株式会社 森木ペーパー)

#### 「和紙産業を陰で支える功労者たち」

和紙の海外進出の背景には仲買人の存在があり、彼らは様々な手段で市場を開拓し普及につとめ、そして実際に「購入する」という行為で和紙産業の発展と存続に貢献してきた。あまり表舞台にでることのない彼らの功績を紹介したい。

11:00~11:50 講演(2) 稲葉政満  
(東京藝術大学大学院教授)

#### 「西欧の和紙コレクション」

江戸時代から明治時代に和紙はヨーロッパ人によって収集された。オランダのシーボルトコレクションとイギリスのパークスコレクションを中心に、どのような和紙が収集されたかを紹介する。あわせて、当時の和紙の性状についても報告する。

1:20~2:10 講演(3) リチャード・フレービン  
(和紙アーティスト・和紙作家)

#### 「和紙に魅せられて」

和紙は繊細で美しく、私の表現するアート素材として最適で重要なものです。私の出発点は版画家ですが、現在は自身で栽培した楮で作品を創っています。和紙を作る工程の中、技術を重ねることによりアート表現が広がりました。私と同様に和紙作家、研究者、保存家の方々も和紙に魅せられています。

2:10~3:00 講演(4) 増田勝彦  
(昭和女子大学教授)

#### 「海外の修復専門家は和紙をどう見ているのか」

和紙は海外の文化財をどのように支えているでしょう。また、文化財保存に和紙を使っている専門家は、和紙の持つ保存用資材としての機能だけでなく、紙自体が発している美しさに対して、どのような評価を与えているでしょうか。

3:30~4:20 講演(5) 久米康生  
(和紙文化研究会代表)

#### 「西洋人による和紙認識の展開」

来航した海外の知識人が和紙と出合った感動をどう語り、万国博でどのように評価されたのか。時の流れとともに深まった西洋人の和紙認識をたどり、和紙の特徴を再認識する。

4:20~4:50 総合討議 座長:熊谷紀子  
(江戸東京博物館)

4:50~5:00 閉会挨拶 半田正博  
(東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター教授)

16世紀以降、来航した海外知識人の記録した和紙の魅力を、初期の万国博などで確かめた西洋市民は生活にも活用した。そして紙史研究の権威D・ハンターは「和紙作りは世界最高の技術」と評価している。欧米で客観的あるいは科学的な視点で高く評価された和紙のすばらしさの広がりを展望し、和紙のすぐれた価値を探りたい。

[日時]

平成21年11月22日(日)

午前10:00~午後5:00

閉会后、校内にて交流懇親会を催します。会費別途

[会場]

昭和女子大学グリーンホール

- ・東急新玉川線三軒茶屋駅下車 南出口より徒歩5分
- ・JR渋谷バスターミナルより  
三軒茶屋方面行 昭和女子大学前下車

[参加費]

一般 3500円

(機関誌「和紙文化研究」第17号及び講演要旨集を含む)

[定員]

250名

[参加申し込み方法]

参加費の事前払い込みによる受付です。郵便振替用紙に住所、氏名、電話・FAX番号、専門分野もしくは所属をご記入の上、参加費を払い込み下さい。準備の都合上、お早めにお申し込み下さい。締め切り**11月11日(水)**

[振込先]

郵便振替口座:00170-8-402506

「和紙文化講演会」

[事務局]

〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8

東京藝術大学 大学院美術研究科 保存科学気付

第17回和紙文化講演会事務局 稲葉政満

東京藝大内 FAX 03-5685-7780

特設 携帯電話 080-6730-8581

(この特設電話は会期までの平日、午後1時~6時)

\*会場の昭和女子大学へのお問い合わせはご遠慮下さい。

主催 和紙文化研究会 後援 文化財保存修復学会

**和紙文化研究会** (代表:久米康生)

多彩な和紙文化をあらためて見直そうと、平成元年5月に発足した勉強会です。月例会を中心に、和紙文化に関する調査研究と情報発信など、自主的な非営利活動を続けています。年一回、機関誌『和紙文化研究』の刊行とあわせ、広く一般に向け講演会を催し活動の成果を公開しています。